

令和元年度 長与町学校評価 学校関係者評価

長与町立（長与中）学校

項目	重点目標及び取組内容	評価	分析（及び改善策）	学校関係者評価
心の豊かさ と自ら学ぶ力を育てる 学校教育の実現	1 豊かな心の育成 (1) いじめへの対応 ・サインに気づき、生徒理解とトラブル発見 ・未然防止、早期発見、早期対応	3.5 妥当	○いじめ対応については、毎月悩み調査を実施し、全職員で組織的かつ迅速に対応した。 ○毎週の生徒指導部会、特別支援部会で諸課題を共有し、対策を立てて組織的に対応した。SSWや子ども政策課等、外部機関との連携も図った。	・登下校の様子は楽しそうである。 ・相手のことを考えた言葉遣いなど、言語環境を整えてほしい。 ・学校では、生徒同士のいさかいや、意見が分かれることがあると思うが、素直に非を認めたり、相手の気持ちを思いやったりする気持ちを大切にしてほしい。
	(2) 情報共有と迅速な組織対応	3.5 妥当	●学校が楽しいと感じる生徒は、2学期にやや低下した。対人関係や生活状況から生徒の生活満足度が低下したと考えられ、個別対応の充実や他者を思いやる心の育成を図る。	
	(3) 不登校への対応 ・個に応じたきめ細かな対応	3.2 妥当		
	(4) 通いたくなる学校 ・学校が楽しい（生徒アンケート）	3.4 妥当		
	2 基礎学力の充実 (1) 分かる授業の実施 ・分かる授業、できる授業のための授業改善	3.5 妥当	○校内研修や教材研修など、教師の授業改善への取組は熱心である。 ●家庭学習の習慣化や学習規律の低下については喫緊の課題として個別の学習指導等を行って取り組んだ。生徒・保護者とも家庭学習の習慣化に課題を感じており、3学期も重点項目として継続指導した。	・学力向上に向けた取組は、継続して取り組んでほしい。 ・新入生の入学後に、宿泊学習を行うことはとても良いと思う。生徒が中学校生活のルールや集団生活の大切さを理解して学年の団結を深めることで、行事の意義が高まると思う。
	(2) 家庭学習の習慣化に向けた指導	3.3 妥当	●CRT調査では、1・2年とも全教科、全国平均は上回っているが、見えた課題を各教科で改善指導している。	
	(3) 学習規律と学習習慣確立に向けた取組	3.5 妥当		
	3 健康安全教育の推進 (1) 心身の健康・安全についての指導	3.0 妥当	○家庭との連携と校内管理の徹底を行うことでアレルギー対応を確実に実施した。	・ガイドライン導入後、部活動の時間が短くなり、体力の低下が心配である。 ・生徒の部活動に対するモチベーションの低下が気になる。 ・部活動においては、活動時間の有効性を高めることや生徒自身の時間活用能力の育成が大切である。 ・これからも部活動のあり方などの検証を進める必要がある。
	(2) 体育的行事や部活動による、たくましい生徒の育成	3.4 妥当	○様々な学習会を実施することで、安全管理への意識を向上させた。（メディア安全、DV防止、性教育、食育、ゴミ分別、薬物防止） ●集団への不適応や心身の悩みを持つ生徒が多く、別室対応や家庭訪問などの配慮事項が増加した。	
	(3) 生徒の危機管理意識と自己防衛力の育成（アレルギー、SNS、薬物、DV等）	3.4 妥当		
	4 特別支援教育 (1) 一人ひとりのニーズに応じた支援 ・支援計画や理解支援シートの作成と活用	2.8	○特別支援部会を毎週実施し、情報共有と対策の検討、指導方針の確認等を行った。	・特別支援教育の（1）の数値2.8の低さが気になる。数値は適正であるのかを検証するとともに、低さの原因を探り、改善してほしい。
	(2) 困り感のある生徒の状況共有と対策検討	3.2 妥当	●支援計画や理解支援シートについては来年度さらに有効活用を図る。	
	(3) 困り感のある生徒への支援や言葉かけ	3.2 妥当		
	5 国際化への対応 (1) 日本人としてのアイデンティティの確立 ・日本文化や地域の理解、協調性や人間性の育成	3.1 妥当	○総合的な学習の時間や道徳、平和・人権集会などで多様性や寛容性を高める学習を行った。	・長与中学校の生徒は、気持ちの良い挨拶を行っている。これからも生活の基本として挨拶はとても大切なことと位置付けて指導を行ってほしい。 ・心を育むために、地域行事に生徒を参加させてほしい。 ・家庭教育10カ条を普及させ、学校や家庭の生活に潤いを与えてほしい。
	(2) コミュニケーション能力の育成 ・他を認め、ともに高め合う意識や対話力の育成	3.2 妥当	●身に付けさせたい資質・能力や社会で生きて働く力などの将来的な視点を、共通理解して指導することで、効果を高める。	
	(3) グローバルな視野と融和の精神 ・世界情勢や人としての在り方についての考察 ・広い視野を持つことの大切さの考察	3.0 妥当		
	6 教育環境の整備 (1) HPやメールを活用した安全確保等の連絡	3.2 妥当	○登下校の安全確保のためのメール通信やHPの活用は有効であった。	
	(2) タブレットや電子黒板等の学習機器の活用	3.1 妥当	●電子黒板に加え、iPadの活用率について、さらに高めていく。学力向上に向けた活用のあり方について、今後も研究を深める。	
	(3) 日常の環境整備、資源のリサイクルへの心がけと生徒への指導	3.3 妥当		
	7 教職員の資質向上 (1) 指導力向上に向けた研修意識の高揚	3.4 妥当	○深い学びにつながる対話に関する研修に加え、ごみ分別研修などの現職教育についても、各職員積極的に参加した。	
(2) 服務規律の遵守と体罰やハラスメントの撲滅	3.7 妥当	○校務支援システムへの移行や業務改善への取組にも、全職員一丸で取り組むことができた。		
(3) 風通しの良い職員室づくり	3.5 妥当			